

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年3月31日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520779

研究課題名（和文） 漢代地域圏の学際的研究

研究課題名（英文） Study on the area of Han Dynasty compared with regions and districts.

研究代表者

上野 祥史 (UENO YOSHIFUMI)

国立歴史民俗博物館・研究部・准教授

研究者番号：90332121

研究成果の概要（和文）：

漢代は古代中国世界の一つの到達点であり、統一を背景とした共通性が強調されることが多い。本研究は、歴史情報と地理情報に基づいて漢代の地域圏を整理して、考古学・文献史学・自然地理学という視点から地域圏を評価することで、漢代社会の構造を明らかにしようとするものである。城郭・墓葬・自然境界を分析の手段として地域圏を析出し、地域圏相互の関係に基づいて、漢という世界の共通性とは何であるのかを問う。

本課題3年間を通じて集めた地理情報と歴史情報をもとに、主に行政支配拠点である郡県に推定される城郭とその地理環境を対照した漢代歴史情報地図を作製した。この漢代歴史情報地図をもとに、よりマクロな視点で漢代の地域社会の実態を検討した。地形利用や領域という視点から地域社会の景観について検討を進め、多様な自然環境のもとにある個々の地域社会の実像を抽出し、その相互関係に注目して、漢という世界を構成する地域圏の様子を検討した。これは、歴史・考古・地理という複合的な視点で、漢代の地域圏を評価したものであり、漢代社会を検討する上で議論の基礎となるものといえよう。

各地域圏そのものを注視するミクロな視点では、安定郡や北地郡などの地域圏内部の実態、あるいは漢帝国周辺地域をも包括する地域間相互の関係などを検討した。個別事例研究の範疇にあるこれらの認識や視点は、学会発表を通じてその一部を公開した。

研究成果の概要（英文）：

Han Dynasty period is imaged as the end of ancient Chinese world and recognized as the world that consists of common social units. With historical, archaeological and geographical analyses, this study appreciated the local areas (as regions or districts) of Han Dynasty Empire. Compared the relation of each area, we asked the common standard of Han Dynasty Empire and researched the structure of the society of which it consists.

Through the three years, gathered the concerning records of history and geography and we made the geo-historical maps of Han Dynasty Empire, that was complex of archaeological sites, chronological or historical records of the governments about walled cities, and geographical environment as traffic routes, so on. Based on this geo-historical map, our group tried to appreciate on the society of Han Dynasty Empire. On the narrow viewpoint, closed up AnDing county and BeiDi county (安定郡・北地郡) as the northern frontier of Han Empire, researched on the substance of local society of Han Dynasty Empire. On the broad viewpoint, compared some area and considered the relation of it, which included the outer area of Empire as Japanese archipelago. It will be basic information for discussion of individual local society of Han Dynasty Empire.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：アジア考古学・秦漢史・地域圏・自然地理学

### 1. 研究開始当初の背景

出土資料を対象とする漢代の考古学研究では、遺物の生産・流通論や技術系譜論、遺跡・遺構の関係論などが進展しており、漢代社会の諸関係を整理して史観を復元できるまでに至っている。こうした出土資料に基づく史観は、文献資料を基礎とした史観とは相対的・独立的な関係にあり、漢代を検討する上では相互補完的な存在である。

一方、基盤研究 C「漢代北方境界領域における地域動態の研究」(課題番号 17520528 平成 17～19 年：研究代表者上野祥史)は、漢代北境界領域という一つの空間を共通のフィールドとして、歴史情報と地理情報を基礎として地域圏を析出し、その相互関係を考古学・文献史学・自然地理学の各視点から比較検討して、漢代北方社会の実態を鮮明にした。学際的に漢代社会を検討する上で、地域という分析視点は極めて有効であることを示し、考古学と文献史学と自然地理学が協業して、地域圏を検討する一つの方法論を確立するとともに、北方地域という地域圏の 1 つのモデルを提示した。

本研究は、こうした学界の状況や先行研究の成果や評価をふまえ、対象地域を大きく華北地域に広げ、地域圏の相互関係から見出しうる漢代社会の構造について解明を進めるものである

### 2. 研究の目的

漢代は古代中国世界の一つの到達点であり、統一を背景とした共通性が強調されることが多い。本研究は、歴史情報と地理情報に基づいて漢代の地域圏を整理して、考古学・文献史学・自然地理学という視点から地域圏を評価することで、漢代社会の構造を明らかにしようとするものである。城郭・墓葬・自然境界を分析の手段として地域圏を析出し、地域圏相互の関係に基づいて、漢という世界

の共通性とは何であるのかを問う。

### 3. 研究の方法

本研究は、マクロな視点とミクロな視点を交えつつ、漢代世界を構成する地域圏の実態と相互関係を明らかにすることを目的とする。その進行は、漢代歴史情報地図の作成と各視点からの地域圏の検討を基本とする。

#### 【漢代歴史情報地図】

まず、地理・考古・文献の各情報を集成して整理し、それらを統合することによって漢代歴史情報地図を作成する。漢代歴史情報地図は、地理情報を集成し整理した成果である地形利用図に、歴史情報(考古情報と文献情報)を重ねることによって作成する。

- ・地理情報：高精度地図及び衛星写真を利用して地形利用図を作成
- ・考古情報：遺跡(城郭・墓葬)・遺物(墓葬副葬品・瓦・封泥等)などの情報を集成
- ・文献情報：文献記載や歴史事件の情報を集成

#### 【地域圏の学際的検討】

この漢代歴史情報地図を基に、考古学・文献史学・自然地理学の視点から地域圏を析出し検討を加えてゆく。地域圏を検討する上では、現地調査をおこなう。

考古学的検討では、城郭の立地環境を類型化することによって、王朝の地域経営戦略を明らかにし、墓葬の格差を整理することによって、城郭都市における集団の階層構造と指向性を明らかにする。王朝(中央)と地域(地方)という視点を対照して、地域圏の検討を進める。

文献史的検討では、郡県経営や治水・開発・国防に反映された王朝の視点と、個々の人物描写の背景に見える地域の視点を対照して、地域圏の検討を進める。考古学と文献史学は検討資料こそ異なるものの、ともに外からみた地域圏と内からみた地域圏を対照

することによって、対象地域圏の様相を立体的に示すことが可能である。

自然地理学的検討では、地理環境と生業選択という視点から、境界がもつ意味を明らかにし、交通路の推定とあわせて、漢代の地域圏を相対化することを目指す。

なお、本研究では内蒙古・遼寧・河北・河南・山東・山西・陝西・甘肅など華北地域を対象とする。漢代社会は黄河流域を中心とした華北地域を中心に展開しており、この地域を対象とすることで、漢代社会の構造をより鮮明に示すことができると考えるからである。

#### 4. 研究成果

本課題3年間を通じて、集成した地理情報と歴史情報をもとに、主に行政支配拠点である郡県に推定される城郭とその地理環境を対照した漢代歴史情報地図を作製した。これは、漢帝国の支配領域に相当する地域を対象にしたものである。

この漢代歴史情報地図をもとに、よりマクロな視点で漢代の地域社会の実態を検討した。地形利用や領域という視点から地域社会の景観について検討を進め、多様な自然環境のもとにある個々の地域社会の実態を抽出し、その相互関係に注目して、漢という世界を構成する地域圏の様子を検討した。これは、歴史・考古・地理という複合的な視点で、漢代の地域圏を評価するものであり、漢代社会を検討する上で議論の基礎となるものといえよう。

各地域圏そのものを注視するミクロな視点では、安定郡や北地郡などの地域圏内部の実態、あるいは漢帝国周辺地域をも包括する地域間相互の関係などを検討した。個別事例研究の範疇にあるこれらの認識や視点は、学会発表を通じてその一部を公開した。

これまでの研究では、郡県の位置を考察した『中国歴史地図集』のように文献情報と地理情報を統合した検討や、特定地域の遺跡・遺物情報を網羅した各省別の『文物地図集』のように考古情報と地理情報を統合した検討などがある。しかし、地理情報を基礎として考古情報と文献情報を重ねた研究はない。ここに、地域圏を共通の題材として、考古学と文献史学及び自然地理学が学際的に検討を進める本研究の特色及び独創性がある。また、地理情報も地形図のみならず、地理環境と生業適応・選択の可能性などを視野に入れた検討に基づいている点で、これまでの考古学・文献史学と自然地理学との協業とは異なる独自の的方法論であるといえよう。

なお、地域圏の検討においては、考古学と文献史学の新たな協業スタイルを実践する

ものであると考える。王権の戦略（外からみた地域の評価）と地域の紐帯（内からみた地域の評価）を共通の命題として、考古学と文献史学が独自の資料に基づいて検討を進めるという点で、資料形態の違いが検討内容・次元を左右すると考えるこれまでの協業とは一線を画しており、新たな研究であると考えている。

本研究は、特定の北方境界領域を対象とした先行研究を発展させ、より広域を対象として「地域圏」の検討を試みたのである。漢代地域圏を評価する上では、マクロな視点とミクロな視点が重要になるが、漢代世界は広大な範囲に及び、蓄積された考古情報も膨大な数に及ぶため、マクロな視点での検討を中心に漢代の地域社会に対して研究成果を集約した。ここに、研究目的の一半は実践できたものと考えているが、ミクロな視点での評価は、個別事例の検討を積み重ねた状態にあり、漢代の地域圏の個別事例研究は、今後も検討の継続が望まれる。個々の地域圏の実態を、漢代歴史情報地図に落とし込むことで、多様な地域圏の複合体である漢という世界の性質がより具体性を帯びるものと考えている。学会発表を通じて研究成果の公開を進めたが、今後も継続して成果公開につとめたいと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

①AKOJIMA Isao, UENO Yoshifumi, SUGIMOTO Kenji, OKAWA Yuko, Land Classification Map of Shan-Xi and Inner Mongolia to review the Distribution Pattern of Archaeological Sites in the Inter-fringing Zone of Nomads and Agricultural people during Han Dynasty, “7th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography”, Aug., 3-6, 2012, Changchun, China.

②上野祥史「漢帝国与東夷社会—倭与漢鏡—」(『漢代西域考古与漢文化国際學術検討會』, 2012年10月15-18日, 中国新疆維吾爾自治区烏魯木齊市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上野祥史 (UENO YOSHIFUMI)  
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授  
研究者番号：90332121

(2) 研究分担者

杉本憲司 (SUGIMOTO KENJI)  
佛教大学・文学部・名誉教授  
研究者番号：90079020

(3) 連携研究者

阿子島 功 (AKOJIMA ISAO)  
山形大学・人文学部・名誉教授  
研究者番号：00035338